

自然観察会安全管理マニュアル

1. 目的

この自然観察会安全管理マニュアルは（以下、マニュアルと言う）は、保全協会（以下、協会と言う）の安全管理方針に基づき、協会に所属し自然観察会を行うグループ（以下、グループという）の安全管理について定めるものである。

2. グループの心得

グループの責任者（以下、責任者という）は、このマニュアルを遵守し自然観察会を行うものとする。

3. グループの実施事項

グループの実施事項は次項以下に安全管理の上で必要な項目を◎必須、○努力、☆選択としてリストした。これらの項目について抜けがないようにチェックするものとする。尚、実用しやすいよう巻末に付表とした。

4. 事前準備段階にチェックすること

◎安全専任者の指名

安全責任者の指名は当該グループの事情を考慮し事業毎または期間毎に定める、スタッフの少ないグループは責任者が兼ねても可とする。

安全専任者は責任者と共に次のものを確認する。

◎観察場所の下見調査

観察場所へのアクセス、車道の状況、進入路、トイレの有無・位置、観察場所の日陰・樹木・下草、ハチ・蛇等の危険生物などの下見調査を行う。

◎危険予知

観察場所の状態および災害・ヒヤリ事例等（参照、別紙3：ホームページ事故情報閲覧方法）からの危険予知を行う。

◎連絡手段と病院・消防署の把握

万一事故発生時のために、連絡手段としての携帯電話の通話可能範囲、および作業場所近辺の病院・消防署などの連絡先を把握する（参照、別紙4：事故発生時の処置フロー）。

◎スタッフの役割分担

活動責任者、安全専任者、救護担当、対外連絡等の役割分担を決める。

スタッフ数は原則として参加者7～8名に1名配置する。

◎応急救護薬品等の準備

応急救護薬品（参照、別紙8、定期的にチェックし必要なものを補充する）、及び補給水等を準備する。

◎荒天時の対応

予め雨天などの中止、決行などを決める。

○参加者の把握

観察会内容から事前に把握する必要がある場合は、参加者の性別・年齢・連絡先等を把握する。

小学生以下の参加者は保護者同伴の場合のみ可能とする。

5. 活動計画と広報活動でチェックすること

◎活動区分

活動は当該グループのスタッフのみで行う自主観察会、観察会下見、打ち合わせと一般参加者を募って行う公開観察会に分ける。

◎活動計画

責任者は、前項の事前準備における安全対策並びに、スケジュールおよびスタッフの役割分担等を含めて活動計画を立案する。

☆広報活動

公開観察会は、スタッフ間での確認後、広報活動を行う。

☆広報内容

協会広報誌「都市と自然」・ホームページ掲載等のため活動実施2か月前に定める。

広報内容は以下のもの

- ① 開催日
- ② 雨天時の実施可否
- ③ 開催場所
- ④ 集合場所と時間
- ⑤ 集合場所までのアクセス
- ⑥ 解散場所と時間
- ⑦ 参加費
- ⑧ 持物
- ⑨ 服装（基本は帽子、長袖、長ズボン、底の厚い靴）
- ⑩ 連絡先（申し込み・当日）
- ⑪ その他必要な特記事項。

6. 実施段階でチェックすること

◎決行・中止の決定

天候による決行と中止の判断。実施日に当該会場地域に大雨・洪水・暴風・雷・波浪などの警報発令がある場合は中止する。尚、雷注意報発令時は、避難場所（東屋、トイレ、避難小屋、車など）を確保できない場合は中止する。

◎受付

集合場所で出席簿に参加者が氏名、連絡先の記入、参加費徴収、資料などを配布し受付を行う。

この受付簿は保険加入者の裏付け資料とする。

本個人情報については、保険適用時および忘れ物など連絡が必要な時にのみ使用することを、伝えて記入頂くことにする。

◎オリエンテーション

観察開始時には参加者全員により次の項目を行う。

- ◎観察会内容とスケジュールおよびリーダーの確認。
- ◎観察会場所の状況と安全遵守事項。
- ◎スタッフの役割分担。
- ◎参加者の服装と体調確認。
- ◎天候変化時の対応。
- ☆必要であれば、参加者に写真撮影の許可を得ること。
- ☆軽ハイキングを要す場合は準備体操をすること。
- ◎参加者よりの質問・疑問・不安などに応えること。

◎活動中のチェック事項

- ◎適正な休憩確保と水分補給の指示。
- ◎単独行動は原則禁止、単独行動を行う場合の注意事項の確認。
- ◎スズメバチ、マムシ等危険な生物への注意。
- ◎天候が怪しい場合は、雨天、雷等の天候激変を雲・風等の状況、またはスマホなどを活用し活動の継続、中止を決める。
- 安全専任者は、参加者の状況をパトロールして、必要がある場合は注意および指導をする。

☆その他チェックすること

☆フィールド別（海・川・山など）、アクティビティ別（水遊び・スノーケリングなど）安全管理については、次のものを参考にする。

- ・グループで独自に作成されたマニュアル、または特定のマニュアル
- ・NPO 法人自然体験活動推進協議会（CONE）「自然とのふれあい活動における安全管理マニュアル」
- ・子ども（小学生以下）だけを集めて宿泊を伴うウミガメ観察会、雪遊びなどの安全管理については、事前に家族説明会を行い、次のことを確認する。
 - 行事内容、主催者としての安全対策、参加者健康調査、保護者連絡先など。
- ・海・川などでは地震・津波などの情報担当者を決める。

◎活動終了後

- ◎活動終了後は、参加者全員によるふりかえりを行う。
- ◎参加者と体調の確認。

◎参加者へヒヤリハット事故の聞き取り

ヒヤリハット事故があった場合はいつ、誰が、どこで、どのようなヒヤリハット事故などを所定のヒヤリハット事故報告書（別紙6）にとりまとめ協会へ報告する。

◎安全に帰宅する旨伝える。尚、復路の事故も保険対象なる旨伝える。

◎ダニ類が活発に活動する春から秋にかけて山林・草地に立ち入る際には、衣服への払い落としをする。帰宅後は必ず入浴し、ダニ類が体表についていないかの点検をする旨伝える。

◎スタッフ毎には改善・継続項目の整理。

7. 事後段階にチェックすること

◎保険の手続き

6カ月ごとに観察会一般参加者全員にボランティア保険（別紙1「行事参加者傷害・賠償責任保険」、参照、別紙2「ボランティア保険に関するよくある質問」）へ支払い手続きをする。

単価は観察会一般参加者一人300円、スタッフは一人年間3000円を協会事務局に納入する。

◎講習会・研修会への派遣

リスクマネジメント研修会、救急訓練へのスタッフの派遣を計画する。

8. 事故発生時にチェックすること

責任者は、万一事故が発生した場合、スタッフと共に被災者の救護を第一に次の要領で対応する。

（参照、別紙4：事故発生時の処置フロー）。

◎被災状況の確認

被災者の被災状況（怪我）と被災者の意識を確認する。

◎応急措置可能範囲の場合

被災状況が応急措置可能な軽度の場合は、応急救護薬品により対応する。

◎救護を呼ぶ場合

被災状況が救護を要する場合は、救急車などを呼びスタッフが付き添い緊急病院へ搬送する。

重大事故の場合は、当該グループのみならず協会としても対応を求められたため、救急車を呼び救護した場合、および病院へ搬送した場合は、初動対応として協会岡事務局長（携帯090-1911-3376、固定06-6242-8720）またはリスクマネジメント担当大塚（携帯090-5067-4336）に報告する。

◎活動の継続、中止の判断

いったん活動を中止し、全員に被災状況を連絡し、活動の継続または中止を判断し指示する。

◎事故報告

いつ、誰が、どこで、どのような被災（怪我）、処置内容、推定原因、再発防止策などを所定の事故報告書（安全管理規程 別紙6）にとりまとめ、事故後1週間を目途に協会へ報告する。

◎治療状況と保険金の確認

被災者の治療状況（入院・通院）と保険金支給有無の確認を行い協会に報告する。

◎保険適用

保険は往復路および活動中（休憩も含む）が対象となる。但し、一般参加者の場合で事前に参加申し込みをされていない場合は、往路事故は適用対象にならないので注意を要す。

9. 付則

このマニュアルについて疑義が生じた時、および定めのない事項は理事会で定める。

10. 改廃

このマニュアルの改廃は理事会の決議により行なうものとする。

11. 施行

このマニュアルは2017年9月29日より施行するものとする。

付表、安全管理チェックリスト

事業名（行事名）	実施グループ	実施日	上段：事業責任者 下段：安全専任者

※チェックの方法は事業責任者と安全専任者が行う。下表のチェック項目について実施状況をチェック記入欄にチェック印を記入し漏れがないようにする。区分の◎は必須、○は努力、☆は選択項目である。

1. 事前準備段階でチェックすることは8項目

チェック 記入欄	区 分	チェック項目
	◎	安全専任者の指名を行ったか？
	◎	観察場所の下見を行ったか？
	◎	観察会の危険予知を行ったか？
	◎	事故発生時の連絡手段と病院・消防署の把握を行ったか？
	◎	スタッフの役割分担を行ったか？
	◎	応急救護薬品の準備を行ったか？
	◎	荒天時の対応を行ったか？特に雷注意報発令時の対応
	○	参加者の把握を行ったか？

2. 活動計画と広報活動でチェックすることは4項目

チェック 記入欄	区 分	チェック項目
	◎	活動区分（日常活動か一般参加者を募る活動か？）
	◎	活動計画を立案出来たか？
	☆	広報活動は2か月前に行っているか？
	☆	広報内容は11項目、漏れなく行ったか？

3. 実施段階でチェックすることは24項目

チェック 記入欄	区 分	チェック項目
	◎	決行・中止の決定を行ったか？
	◎	個人情報の扱いについて説明し参加者全員の受付を行ったか？
		オリエンテーションで次の事項を行ったか？
	◎	観察会内容とスケジュールおよびリーダーの確認
	◎	観察会場所の状況と安全遵守事項
	◎	スタッフの役割分担
	◎	参加者の服装と体調確認
	◎	天候変化時の対応
	☆	必要であれば、参加者に写真撮影の許可を得ること
	☆	軽ハイキングを要す場合は準備体操をすること
	◎	参加者よりの質問・疑問・不安などに応えること

チェック 記入欄	区 分	チェック項目
		活動中に次の事項を行ったか？

	◎	適正な休憩確保と水分補給の指示を行ったか？
	◎	単独行動は原則禁止、単独行動を行う場合の注意事項を行ったか？
	◎	スズメバチ、マムシ等危険な生物への注意を行ったか？
	◎	天候が怪しい場合の判断と指示を行ったか？
フィールド別（海・川・山など）、アクティビティ別（水遊び・スノーケリングなど）		
	☆	グループ独自に作成された安全マニュアルによりチェックを行ったか？
	☆	CONE「自然とのふれあい活動における安全管理マニュアル」でチェックを行ったか？
	☆	子どもだけを集めて宿泊を伴う観察会では家族説明会を行ったか？下記の事項は？
	☆	行事内容、主催者の安全対策、参加者の健康調査、保護者連絡先などを確認したか？
	☆	海・川などでは地震・津波などの情報担当者を決めたか？
活動終了後は参加者全員により、ふりかえりを行ったか？		
	◎	参加者と体調の確認を行ったか？
	◎	参加者へヒヤリハット事故の聞き取りを行ったか？あった場合は協会へ報告を行ったか？
	◎	安全に帰宅する旨伝えたか？復路の事故について保険対象になる旨説明したか？
	◎	衣服への払い落とし。帰宅後入浴しダニ類が体表についてないかの点検を伝えたか？
	◎	スタッフ毎には改善・継続項目の整理を行ったか？

4. 事後段階でチェックすることは2項目

チェック 記入欄	区 分	チェック項目
	◎	保険の手続きを行ったか？
	◎	安全関係の講習会・研修会への派遣を行ったか？

5. 事故発生時にチェックすることは8項目

チェック 記入欄	区 分	チェック項目
	◎	被災状況の確認を行ったか？
	◎	被災状況が軽度の場合は、応急救護薬品により行ったか？
	◎	被災状況が救護を要す場合は、救急車を呼びスタッフが付き添い病院へ搬送を行ったか？
	◎	救急車要請時また病院搬送時は、初動対応を協会岡事務局長（携帯090-1911-3376、固定06-6242-8720）またはリスクマネジメント担当大塚（携帯090-5067-4336）に報告したか？
	◎	活動の継続、中止の判断と指示を行ったか？
	◎	事故報告を取り纏め協会へ送ったか？
	◎	治療状況と保険金の確認を行ったか？
	◎	往復路の場合、保険対象事故か確認したか？

6. グループ独自のチェック項目

チェック 記入欄	区 分	チェック項目

以上